

湖風会「工学部学友会」第二回総会  
ご挨拶

滋賀県立大学 理事長・学長 大田啓一



工学部学友会第二回総会の開催をお祝い申し上げます。

滋賀県立大学同窓会のこれからの発展のために各学部支部を結成していくという、同窓会としての方針を受け止められて、先ず工学部においてその先陣を切られたことに敬意を表します。これに倣ってそれぞれの学部において支部が結成されることを期待するものであります。

さて、滋賀県立大学は1995年（平成7年）4月の開学ですから、ただいま20年目を過ぎているわけでありまして。この間に大学の組織は、学部については4学部、13学科に、大学院については4研究科、10専攻へと大きくなりました。現在の学生数は2,800余名、教員は202名、常勤の職員は55名であり、全国に83ある公立大学の中にあつては、活力の高い大学として知られるようになりました。

滋賀県立大学は皆様ご承知のように、滋賀県が設置しました短期大学を前身としています。その短期大学の設置時から数えますと、今年は65年目にあたることになります。短期大学も県立大学も滋賀県の県民ニーズに基づいて建学されたものですから、「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する」高等教育機関として、大いに期待されていたことは共通しております。

この期待に応じて、本学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、地域に向き合った教育を推し進めて参りました。また研究におきましても、地域の課題となっている事象を積極的に取り上げ、また県内企業との共同研究、あるいは自治体も含んだ産官学連携研究を進めて参りました。特に工学部は企業との連携を重んじられ、また企業は工学部支援会を組織され、工学部の発展を支援してこられました。

このような状況の中で工学部学友会を結成され、同窓生の情報交換と交流を図りつつ、在学生への支援や工学部との連携を進めていただけることは、大学にとっても誠にありがたいことです。特に工学の分野では他大学との間で、また今日では海外の大学との間で、就職についての競争関係が厳しさを増しております。ここのところにもご支援を頂ければ大変幸いです。

さて県立大学は、開学20周年を記念して、記念事業を実施することにしております。記念式典については、20年を経過した後に行うものだそうですから、来年の開学記念日である6月6日に開催する予定にしています。

記念式典を含む記念事業としては、これまでの成果を引き継ぎながら、一層の発展に弾みをつけることを目的にして企画したいと思っております。これから本学が発展を期すところは、教育・研究の質をさらに向上させ、地域との連携をさらに深めていくことであり、また国際化時代の要請をさらに受け止めていくことです。これらを通して、学生、教職員、卒業生にとってかけがえのない大学となり、また地域社会にとってもかけがえのない大学になることを目指したいと考えています。20周年を機にその決意を固め、一步を踏み出せるような記念事業になることを期待しています。

そのような事業は大学独りが考えて実行できるものではなく、同窓会や後援会との連携をお願いしているところであります。また地域の自治体や関係団体の支援も仰ぐ予定にしております。工学部学友会におかれましても、上に述べた主旨をご理解いただき、ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

工学部学友会のますますのご発展をお祈りいたします。